

国公立大前期日程の受験状況

文部科学省は、2月25日より実施されている国公立大の前期日程の受験状況を発表した。1日目第1時限目の受験対象者数は241,319人。このうち受験者数は226,633人で、欠席者は14,686人となった。欠席率は昨年と同じ6.1%となった。〈図表1〉は過去5年の欠席率の推移である。国立大の欠席率は緩やかな上昇傾向にあることがわかる。一方で公立大は、昨年、欠席率の上昇が目立ったものの、今年は例年並みに落ち着いた。

大学別にみると、最も欠席率が低かったのは京都市立芸術大(0.7%)で、欠席者は3人であった。そのほか、例年欠席率の低い東京大、東京芸術大、一橋大、京都大などが、今年も上位に挙がっている。

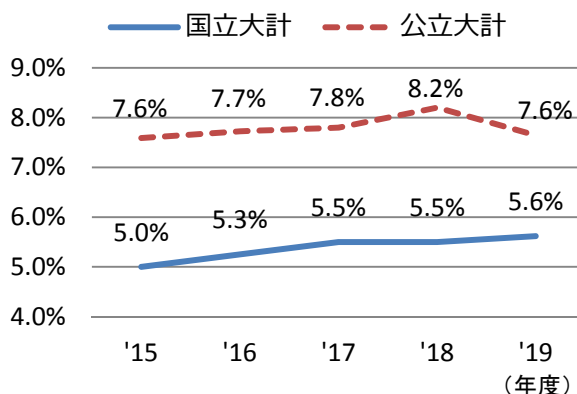
一方、最も欠席率が高かった大学は上越教育大で26.5%。次いで愛媛県立医療技術大、徳島大、首都大東京などが続く。欠席率が1割を超えた大学は162大学中25大学で、昨年の32大学に比べ減少した。

前期日程を欠席する背景は、主に二点挙げられる。一点目は、併願した私立大へ合格して受験を取りやめるというケースである。こうした動きは都市部の公立大に多く見られる。

例えば首都大東京や横浜市立大は首都圏の難関私立大との併願者が多く、例年欠席率は1割を超える。

二点目は、推薦・AO入試に合格したために、併願した前期日程を欠席するというケースである。近年国公立大では推薦・AO入試でセンター試験を課す大学が増えている。センター試験を課す推薦・AO入試に出願する受験生は、合格発表日が2月上旬以降となるため、一旦一般選抜にも出願することになる。そのため、センター試験を課す推薦・AO入試の募集人員が多い大学では、一般選抜の欠席者が多くなる傾向にある。例えば上越教育大は入学定員160名に対して、推薦入試募集人員は50名(同31.3%)、愛媛県立医療技術大は入学定員100名に対して、推薦入試募集人員は36名(同36.0%)となっている。

〈図表1〉国公立大 前期日程欠席率推移



※文部科学省資料より

●国公立大前期日程1日目第1時限目の受験状況 (文部科学省資料より)

〈全体状況〉

	2018年度				2019年度			
	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
国立計	185,729	175,438	10,291	5.5%	185,625	175,197	10,428	5.6%
公立計	55,787	51,230	4,557	8.2%	55,694	51,436	4,258	7.6%
国公立計	241,516	226,668	14,848	6.1%	241,319	226,633	14,686	6.1%

〈欠席率の低い大学〉

大学名	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
1 京都市立芸術	439	436	3	0.7%
2 札幌市立	252	250	2	0.8%
3 東京	8,661	8,583	78	0.9%
4 東京芸術	1,380	1,367	13	0.9%
5 一橋	2,514	2,484	30	1.2%
6 宮城教育	437	431	6	1.4%
7 沖縄県立芸術	117	115	2	1.7%
8 神戸市看護	169	166	3	1.8%
9 東京学芸	1,769	1,737	32	1.8%
10 京都	7,426	7,282	144	1.9%

〈欠席率の高い大学〉

大学名	受験対象者数	出席者数	欠席者数	欠席率
1 上越教育	211	155	56	26.5%
2 愛媛県立医療技術	165	132	33	20.0%
3 徳島	2,174	1,792	382	17.6%
4 首都大学東京	2,169	1,789	380	17.5%
5 兵庫教育	281	236	45	16.0%
6 新見公立	334	282	52	15.6%
7 宮城	648	550	98	15.1%
8 神奈川県立保健福祉	444	378	66	14.9%
9 室蘭工業	802	683	119	14.8%
10 鳴門教育	191	163	28	14.7%